メイド長「おはようございます♥ぼっちゃま♥
本日も良いお天気ですねぇ♥」

ぼっちゃま「お、おはよう・・・！メイドさん・・・！（ドキッ）」

メイド長（あーあー・・・流石は陰キャの童貞ぼっちゃま・・・
女性の顔は直視できないくせにオッパイはガン見ですか・・・バレてますよ～）

ぼっちゃま「あの・・・っその・・・っ（ハラハラ）」

メイド長「今日も学校でのお勉強、頑張ってくださいませ♥（精々虐められないようになー・・・）」

ぼっちゃま「う、うん・・・っ！行ってきます・・・っ！」

メイド長「はい♥行ってらっしゃいませ♥（学校着くまでには勃起治めとけよー・・・ムッツリくん）」

メイド長「やっと行ったか…
親に甘やかされて育ったクソガキの相手すんのは疲れるわー…」

メイド長「世の中不公平よねー…
あんなオドオドした軟弱坊やでも親が大金持ちってだけで
勝ち組人生決定…み～んなチヤホヤしてくれるんだからさぁ」

メイド長「容姿端麗で元グラビアアイドル。数多の男共を手玉にとってきたのこのアタシがギャンブルでくだらない借金こさえたせいであんな陰キャ小僧にヘラヘラ媚び売る情けない人生送ることになるとは・・・やってらんないわー！・・・」

メイド長「あーあー・・・こんな事なら若いうちに大金持ちのイケメンと結婚しとくんだったわこの歳になるとそんな上玉には遊び相手にしかされないしだからって脂まみれのオッサン相手は絶対に勘弁だしなー！・・・まぁチンポ勃たない老い先短い爺さんなら・・・いやいや大金持ちの爺さんは今更女なんか囲わねーかぁ・・・」

ん…？
大金持ちで若くて簡単に堕とせそうな奴…
何でもアタシの言いなりになりそうな…
…お？

灯台下暗し……ってやつ？

その日の夜……

ぼっちゃま「ハァハァ♥ハァハァ♥
好きだっ♥ハァハァ♥好きだっ♥」
ぼっちゃま「好きっ♥好きいっ♥ハァハァ♥ハァハァ♥」

メイド長「なにしてるんですか～？ぼっちゃま♥」

ぬるっ

ひぃっ!?

ぼっちゃま「メイドさ…っ!!勝手に部屋に…っ!!
いや…っ!!これはその…っ!!」
メイド長「恥ずかしがらなくてもいいですよ～♥
殿方がオナニーするのは自然なことです♥
み～んなやってることです♥ぼっちゃま♥」
ぼっちゃま「はひっ?!はひっ!!」
メイド長「でも～…♥ぼっちゃまはそこらの庶民とは違うんですよぉ?
こういうことはメイドに任せていただかないと♥」
ぼっちゃま「ふえっ?!」

!!
メイド「パイズリってお好きですかぁ？」
ドキ
ドキ
ドキ

メイド長「いまから私めがこのオッパイで～♥
ぼっちゃまの下のお世話をさせていただきます♥」
ぼっちゃま「!!」
メイド長「んふ♥生オッパイを見たのは初めてですかぁ？
こんなにオッパイが大きくなったのは～♥
ぼっちゃまのオチンポをズリズリして気持ち良くして差し上げる為ですぅ♥」
ぼっちゃま「ハァハァ♥ハァハァ♥ハァハァ♥ハァハァ♥」
ぶるんっ
ぶるんっ

メイド長「んふ♥そんなに動揺しないでくださいませ♥ぼっちゃま♥
ぼっちゃまのような上級国民は常に堂々としていなければ♥」
メイド長「メイドなど性処理道具くらいに思って下さいな♥
貴族は支配欲がないとやっていけませんよぉ♥」
ぼっちゃま「ハァハァ♥ハァハァ♥ハァハァ♥」
メイド長「札束で女の頬をペチペチしながら『抱かせろ』くらい言えるようにならなければ♥
勝ち組の男とはそういうものですよぉ♥ぼっちゃま♥」
ぼっちゃま「勝ち・・・組・・・？ハァハァ♥僕が・・・ハァハァ♥」
メイド長「自覚をお持ち下さい♥ぼっちゃまは国内有数の大富豪の時期当主なんですから♥」

ドキ
メイド長「オラ♥はやくチンポよこせ♥」

メイド長「んふ♥」
ぷるんっ
ぽよん♡

メイド長「は～い♥オチンポ入っちゃいました～♥」
メイド長「私のオッパイ大きすぎて
ぼっちゃまのオチンポも隠れちゃいましたね♥」
ぼっちゃま「おっ♥おっ♥おほっ♥」

メイド長「いかがですぅ？挿れただけで気持ち良いでしょう？」
ぼっちゃま「おっ♥おっ♥」
メイド長「でも～♥動かすともっとも～っと
気持ち良いんですよぉ♥
動いて欲しいですか？ぼっちゃま♥」
ぼっちゃま「ひゃいっ♥ひゃいっ♥」
ぱちゅっ♡
ぱちゅっ♡

メイド長「かしこまりましたぁ♥」
おっ♥
ほっ♥
すちゅ♥
すちゅ♥
すちゅ♥
すちゅ♥
すちゅ♥
すちゅ♥
すちゅ♥
すちゅ♥

メイド長「んふふ♥凄いでしょう？
オチンポを左右の乳肉で挟み込んで
上下に扱いてます♥」
メイド長「これがパイズリです♥」
ぼっちゃま「パイ♥ズリィ♥」
メイド長「こんな大きなオッパイに扱かれるチャンスなんて
中々ありませんよぉ？
そこらの女性の乳では満足できなくなるでしょうね♥
でもご安心ください♥
私が一生ぼっちゃまのオチンポのお世話をしますからねぇ♥」
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
あぁ♡
あぁ♡
ぎもぢぃ♡
ぎもぢぃ♡

メイド長「もうイキそうですかぁ？ぼっちゃま♥
いいですよぉ♥射精なさって下さい♥」
ぼっちゃま「メイドさん♥離れてっ♥
精子かかっちゃうっ♥
きっ、汚いからぁ♥」
メイド長「ぼっちゃまの精子は汚くないですよぉ♥
遠慮なくオッパイに中出しして下さい♥」
ぼっちゃま「イグッ♥イグッ♥出ちゃうっ♥」
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡

ぼっちゃま「んほおおおっ♥」
メイド長「あぁんっ♥凄い勢いっ♥
やっぱりお若いですねぇ♥」
ぼっちゃま「パイズリッ♥中出しッ♥
しゅごしゅぎいっ♥」
メイド長「射精中も乳圧かけてあげます♥」
ぼっちゃま「あひゃあああっ♥」
ドピュー
ドピュー
ぎもぢぃ♡
ぎもぢぃ♡
ぎもぢぃ♡

メイド長「あ～ん♥ご覧ください、ぼっちゃま～♥
ぼっちゃまのドロドロのお精子た～くさん♥」
ぼっちゃま「ハァハァ♥ハァハァ♥ハァハァ♥」
メイド長「あら♥申し訳ございません♥
精子まみれのオッパイなんでお目にしたら
勃起が治まらないですよねぇ♥」
ぼっちゃま「ふーっ♥ふーっ♥ふーっ♥ふーっ♥」
メイド長「もう一発イっとく？」
ぼっちゃま「ﾋﾟｷｭｰﾝ」

メイド長「ああん♥ぼっちゃまの逞しいオチンポ扱き甲斐があって愛おしいですぅ♥」
ぼっちゃま「なんでっ♥こんな事っ♥ああっ♥」
メイド長「メイドがぼっちゃまの性処理を承るのは当然のことですよぉ♥」
ぼっちゃま「そんなのっ♥エロ漫画の中だけだ・・・っおふ♥」
メイド「えいっ♥えいっ♥」
ぼっちゃま「おぐふっ♥激しっ♥」
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡

メイド長「あ～ん♥ぼっちゃまぁ♥
お慕い申しております♥」
メイド長「若い思春期のぼっちゃまは～♥
毎日エッチな事で頭がいっぱいでしょうからぁ♥
遠慮なく私をオナホにしていいんですからねぇ♥
名のある富豪の息子が独り寂しくオナニーなんかしちゃいけません♥
庶民とは違うんですからぁ♥」
おっ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
おっ♡
おっ♡
おっ♡
すごっ♡
すごっ♡

メイド長「おりゃ♥おりゃ♥メイドに下世話させる贅沢な性処理法♥
自分の右手じゃなく女のカラダを使った金持ちの贅沢オナニー♥」
メイド長「見て下さい♥ぼっちゃま♥
私のオッパイ♥ぼっちゃま専用のオナホ♥
中出しして下さい♥オナホに気を遣う必要ありません♥
射精して下さい♥」
おっ♡
おっ♡
おっ♡
おっ♡
おっ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡

メイド長「はいっ♥ドピュドピュ～♥」
あぐっ♥
ひんっ♥
ドピュ!
ドピュッ

メイド長(プー！クスクス！
惚れた？ねぇ惚れたぁ？)
メイド長(これでもうアタシなしではチンポいじれないわね♥
やっぱガキなんて楽勝だわー♥)

この馬鹿でかい豪邸が私のものになるのも
時間の問題だわ～♡

メイド長「お帰りなさいませ♥ぼっちゃま♥
…おやぁ？どうされました？
なんだか元気がないようですが…」
ぼっちゃま「じ、実は学校で話しかけたい人がいるんだけど
中々勇気がでなくて…」
メイド長(はは～ん…さてはこいつボッチだな？
友達作りたいけどシャイすぎて上手くいかないってかぁ？
陰キャらしい下らない悩みだな～(笑)
金ばらまきゃ寄ってくる奴なんかいくらでもいるだろうに
世渡りが下手だね～)
ぼっちゃま「はぁ…僕ってなんでこんなにダメダメなんだ…」
ゴゴゴ

メイド長「ま、とりあえず一発抜きましょ♥」
ハァハァ
にっこり♡

ぼっちゃま「気持ちいい気持ちいいよぉ♥ハァハァ♥
オチンポ気持ちいい♥」
メイド長(もうすっかりオッパイに夢中かなぁ?
ガキなんて楽勝〜♥
ちょっと優しくしてチンポ擦ってやれば
簡単に堕ちちゃう♥)
メイド長(学校じゃこんな事してくれる女いないもんねぇ♥
んふ♥アタシ専用のATM誕生ももうすぐじゃね?(笑))

メイド長「学校で辛いことがあっても～♥
家に帰れば美人で爆乳の性処理女が
デカ乳ぶら下げてチンポ待ってるんです♥」
メイド長「だからぼっちゃまは～♥
いつでもどこでも私の事だけ考えてくだされればいいんですよぉ♥
学校でも家でも私のオッパイの事だけを思い浮かべて下さい♥」

はあっ♡
メイド長「んふ♥ぼっちゃま♥
学校帰りの疲れマラ、ブッ扱くと気持ち良いですよね♥
濃厚な黄バミお精子ドピュドピュ吐き出して下さいませ♥」
メイド長「ティッシュ要らずのザーメンゴミ箱だと思って
流れ作業で射精してください♥」
はあっ♡
はあっ♡

メイド長「ぼっちゃまの高級ザーメン大量ですぅ♥
そんじゅそこらの下民女には畏れ多い
上級国民の遺伝子ッ♥」
おっ♥
おっ♥
ドビュルルル
おっ♥
メイド長「ぼっちゃまにお仕えできて私は幸せ者です♥」

メイド長「さ～て…そろそろ『おぼっちゃま(笑)』の介護にいくかぁ…」
フゥ～
メイド長「かったりーけど金の為だ…精々サービスしてやっかぁ」

メイド長「さぁ♥ぼっちゃま♥今日もいっぱいズリズリしましょう♥」
ぼっちゃま「あっ、あのっ！実はもうこんなことやめたいんだっ‼」
メイド長「はい？遠慮なさらないでください♥私はぼっちゃまの性処理ができてとても幸せなんですからぁ♥」
ぼっちゃま「実はボク…っ‼好きな人がいるんだっ‼」
メイド長「ああんっ♥ぼっちゃま♥いけません♥私ごとき平民がぼっちゃまと結ばれるなど♥」
ぼっちゃま「クラスメイトのアスカさんって言うんだけどね…♥特別目立つ存在ってわけじゃないんだけど、清楚でとても可愛い女の子なんだ…♥」
メイド長「はい？」
ぶるんっ
ぶるんっ

ぼっちゃま「い、いままで流されちゃってたけど、ちゃんと言わなきゃと思って…!!
す、好きな人がいるのにこんな事良くないと思うんだ…っ!!」
メイド長「そ、そうなんですか…。クラスメイトの…」
ぼっちゃま「うん…♥でも恥ずかしくてまだ一言も会話したことがないんだ…
遠くから見てるだけでもいまは十分なんだけどね…♥へへへ…♥」
メイド長(こ、このクソガキ…!アタシが体張ってやってんのに
他のメスガキに恋してるだぁ!?どんな神経してんの!?
これじゃアタシが哀れすぎんでしょーよ!!
『いい歳こいたオバサンが若いオスに発情してるw』とか
内心馬鹿にしてたんじゃねーだろーなっ!?
元グラビアアイドルでスクールカーストトップだった
このアタシをこんな不細工な陰キャクソガキがコケにしやがったのか!?)

メイド長「ぼ、ぼっちゃま～？
申し訳ございませんが少々ここでお待ちくださいませぇ♥」
ぼっちゃま「え？なんで？」
ハテ
メイド長「すぐに済みますので♥」
ぼっちゃま「は、はい…」

メイド長「じゃ～ん♥いかがですかぁ♥ぼっちゃま♥」

ぼっちゃま「ぶほっ⁉」

メイド長「今晩はぁ♥体操着姿でご奉仕させていただきま～す♥
成熟した大人のカラダでこれ着るとぉ♥
めちゃエロくないですか～？♥」

ぼっちゃま「ハァハァ♥ハァハァ♥」

メイド長「んふ♥ 同じ体操着姿でも、ぼっちゃまの学校には
こ～んなに大きなオッパイで
こ～んなにエッチな事してくれる女の子はいないでしょう？
しかも私だったら他にも色んな服を着てあげますよ♥」
メイド長「ど～んなエッチな恰好でもします♥
ぼっちゃまがお望みとあらば♥」
あっ♡
あっ♡
あっ♡
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
あっ♡
あっ♡

ぼっちゃま「なんでっ♥そこまでっ♥メイドだからってっ♥」
メイド長「決まってるじゃないですか～♥
ぼっちゃまの事を愛しているからですよ♥」
ぼっちゃま「あいっ♥ふえっ♥」
メイド長「ねぇ♥ぼっちゃま♥
小娘の事なんか忘れて私と結婚しましょう♥
私、ぼっちゃまのお嫁さんになりたいんです♥」
あっ♡
あっ♡
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
あっ♡
あっ♡

ぼっちゃま「ぼっ、僕にはッ♥アスカさんがぁっ
アスカさんを愛してっ♥あふっ♥」
メイド長「そのアスカさんはぁ…♥
こんな事してくれませんよねぇ？
それどころかシャイなぼっちゃまはぁ
いつも彼女を遠くから眺めているだけなんでしょう？
一生彼女の写真でオナニーするだけの人生ですかぁ？
私だったらぁ♥ぼっちゃまがお望みなら
いつでもどこでもエッチさせてあげますよぉ♥
ぼっちゃまがムラムラした時に手軽に使える
都合の良いオナホ嫁になってあげます♥
小娘なんかとは違うこの熟したムチムチの大人の女のカラダを
毎日一生使い放題♥です♥」
あっ♥
あっ♥
あっ♥
あっ♥
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ

メイド長「ほらっ♥ほらっ♥ぼっちゃま♥
こ～んな美人で爆乳のお姉さんが
忠実なお嫁さんになってあげるんですよぉ♥」
ご存知でしたかぁ？ぼっちゃま♥
私、学生の頃グラビアアイドルをやってたんです♥
毎日色んな男子から告白されてましたよ♥
ぜ～んぶ断ってましたけどね♥
きっと学校中の男達が私をオカズに
シコシコしてたでしょうね～♥」
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ

メイド長「私の爆乳でパイズリされたくて堪らない男達がぁ♥
夜な夜な妄想の中で私を犯しながら
独り寂しくシコシコシコシコ♥
かわいそうですよねぇ？(笑)」
メイド長「でもぼっちゃまはぁ♥
他の男達が指一本触れることのできない・・・
オナペットにするのが精一杯の高嶺の花のこの私を
お嫁さんにして他の男達に自慢できるんですよぉ♥
勝ち組です♥み～んなぼっちゃまを羨望の眼差しで
見ますよぉ♥んふふ♥」
はぁっ♡
はぁっ♡
はぁっ♡
はぁっ♡
はぁっ♡
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ

メイド長「さぁ♥ぼっちゃま♥選んで下さい♥」
ヤらせてくれない
『どこにでもいるような平凡な貧乳女』と
いつでもヤらせてくれる
『元グラビアアイドルの爆乳美女♥』
どっちがいいですかぁ？

はぁっ♡

はぁっ♡

はぁっ♡

はぁっ♡

はぁっ♡

ドチュッ

ドチュッ

ドチュッ

ドチュッ

メイド長「あ、そういえばぁ♥
私が学生の頃、体育の時間は特に大変でしたぁ♥
体操着姿で動く度にブルンブルン揺れる
私のオッパイ目当てで～♥
学校中の男子達が授業サボって視姦しにきてました♥」

メイド長「わぁ～♥凄～い♥
今の話で余計に興奮しちゃいましたぁ？
でも仕方ないですね～♥
男達が妄想の中で散々私にさせてたパイズリ♥
それをリアルで味わえるのはぼっちゃまだけなんですからぁ♥」
メイド長「皆のオナペットアイドルを独占できる優越感とかぁ♥
それとも大好きな女の子に対しての
罪悪感とか背徳感で興奮する悪い子ですかぁ？」
ほっ♥
ほっ♥
ほゃっ♥
ドビュ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ

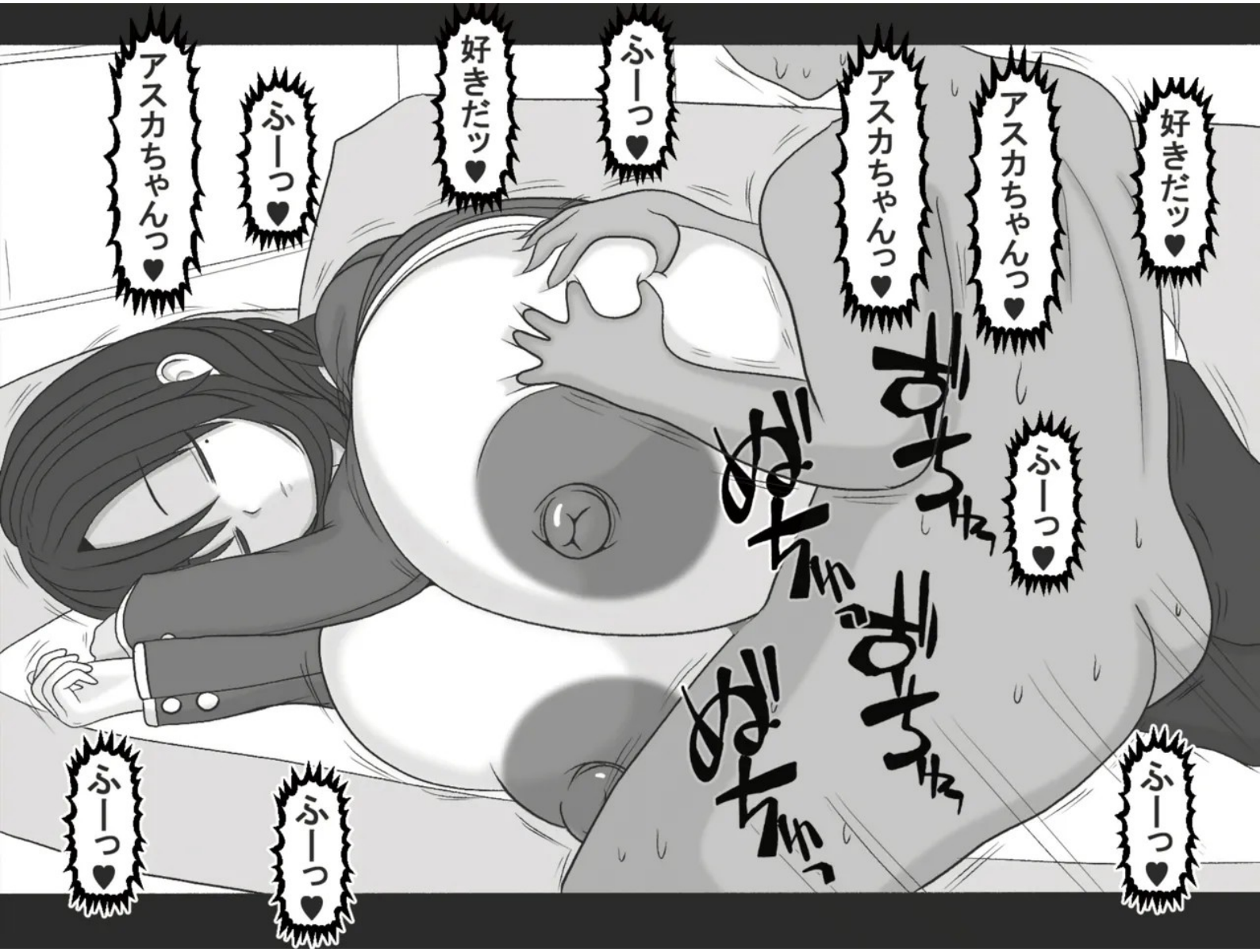
金ズルを小便臭いメスガキなんかに奪われてたまるか……！
どんな手でも使ってやるわ・・っ‼

メイド長「んふふ♥JKメイドで～す♥」
ぼっちゃま「ええっ⁉それ僕の学校の制服っ♥」
メイド長「実は私い♥OB…卒業生なんです♥
どうですかぁ？まだイケますでしょ？んふ♥」
ぼっちゃま「うっ、うん…っ♥とってもっ♥ハァハァ♥ハァハァ♥」
メイド長（食いつき凄～い♥今にも襲い掛かってきそうなくらい目が血走ってる♥）

ぼっちゃま「そっ、それじゃっハァハァ♥さっそくっ♥ハァハァ♥」
メイド長「あ、ごめんなさ～い♥働きすぎですかねぇ♥
急に眠くなっちゃいました～♥
申し訳ありませんが今晩のご奉仕は中止させてください♥」
ぼっちゃま「ええっ!?そんなぁっ!?」
メイド長(ふふふ♥お預け食らった子犬みたい♥
押すだけじゃなく引くことも大事♥
大人の駆け引きに翻弄されちゃった?童貞くん♥)
ぼっちゃま「ふーっ♥ふーっ♥ふーっ♥ふーっ♥」
メイド長(いつも簡単にヤらせてくれる便利な女に拒否られたショックは大きいわよね♥
抜きたくて抜きたくて堪らないんでしょ?息荒すぎｗｗ)

ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
スーッ
スーッ

ふーっ♥
ふーっ♥
ふーっ♥
ふーっ♥
ふーっ♥
ふーっ♥
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ


好きだッ♥
アスカちゃんっ♥
ふーっ♥
アスカちゃんっ♥
好きだッ♥
ふーっ♥
ふーっ♥
アスカちゃんっ♥
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ふーっ♥
ふーっ♥
ふーっ♥

おっ♡
ガッ♡
アスカさ…♡
おっ♡

メイド長「な～にやってるんですかぁ？ぼっちゃま♥」
ひあああっ!?おっ、起きて・・・っ!?

メイド長「女性の寝込みを襲うなんて…
これってレイプですよねぇ？」

メイド長「犯罪ですよ？ぼっちゃま…」

ぼっちゃま「ちっ、違っ！これはっ！そのっ！」

メイド長「しかも違う女の名前を叫びながら犯すなんて…
最低ですね…ぼっちゃま♥私は彼女の代用品ですかぁ？」
ぼっちゃま「ごっ！ごめっ！ごめんなさいっ!!」
メイド長「お父様にお話するべきでしょうか…？
ぼっちゃまにレイプされましたって♥」
ぼっちゃま「～っ!!」
メイド長「ふふふ…♥冗談ですよー♥そんなにビクビクしないで下さい♥
大好きなぼっちゃまが叱られるのなんて見たくないですもの♥」

はひっ!?
でも教育上、お仕置きはしないといけませんね♥
大変心苦しいですが♥

ぼっちゃま「あああああっ♥」
ばす♡
ばす♡
ばす♡
ばす♡
ばす♡
ばす♡
ばす♡

メイド長「ふふふ♥逃がしませんよ～♥」
ぼっちゃま「ゆっ許ひてっ♥あひっ♥」
メイド長「ダ～メ♥謝ってもズリ扱きます♥」
ぼっちゃま「ひいいっ♥」
メイド長「レイプされる者の気持ちがわかりましたかぁ？
ほらっ♥ほらっ♥」
ばむ♡
ばむ♡
ばむ♡
ばむ♡
ばむ♡
ばむ♡
ばむ♡

メイド長「あれぇ？ぼっちゃま？
もしかして喜んでいませんかぁ？
女にレイプされて興奮するなんて
ぼっちゃまはドMの変態さんだったんですね♥」
あひっ♥
あひっ♥
ぁんっ♥
ぁんっ♥
ばす♥
ばす♥
ばす♥
ばす♥
ばす♥
ばす♥
メイド長「ほらっ♥変態さん♥精子出せッ♥
情けなく射精しろっ♥オラッ♥オラッ♥出せッ♥」

メイド長「あはっ♥ザーメンくっさ～い♥
ぼっちゃまのアヘ顔キモイです♥」
あひっ♡
あひっ♡
メイド長「こんな気持ち良くさせちゃったら
お仕置きになりませんね♥くすくす♥」
ビュルル
ビュル
ビュビュビュ
びゅるるるっ♡

ハァハァ
夜はまだまだこれからですよぉ♥

ぼっちゃま「やめっ♥やめれぇっ♥」
メイド長「ダ～メ♥逃がしませんよぉ♥」
やめっ♥
やめろぉっ♥
メイド長「ぼっちゃまの精子でぇ♥
妊娠しちゃえば私と結婚せざるを得ませんよねぇ♥
でもぼっちゃまと中出しセックスするなんてキモいんでぇ♥
パイズリで新鮮な精子貰っちゃいますねぇ♥」
ズボボッ
ズボボッ
ズボボッ
ズボボッ
ズボボッ
ズボボッ

ぼっちゃま「結婚なんてっ♥しないっハァハァ♥
僕はアスカさんとっ♥添い遂げっ♥あふっ♥」
メイド長「しつけーガキだなぁ・・お前に無理矢理レイプされて
孕ませられましたってパパに言ってやろうか？」
ぼっちゃま「⁉」
メイド長「アンタは大人しく子種をよこせばいいの♥
既成事実さえ作っちまえば
こっちのもんなんだからさ♥
跡継ぎのアンタと結婚すれば夢の豪遊セレブ生活が
待ってるんだからよぉ♥」
ぼっちゃま「だっ、誰かあっ‼助けてえっ‼はうっ♥」
メイド長「ム～ダ♥誰も助けにこないですよぉ♥ぼっ・ちゃ・ま♥」
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ
やめっ♡
やめろぉっ♡
誰かぁ♡
誰かぁ♡
助けっ♡

メイド長「あ～んっ♥ぼっちゃまのくっさいザーメンがぁ♥
いまは金銀財宝に見えますぅっ♥」
ぼっちゃま「嫌らあっ♥嫌りゃあああっ♥」
メイド長「暴れないで下さいよぉ♥最後の一滴を出し尽くすまで
逃がしませんので♥無駄な抵抗はおやめください♥」
ビュッ
ビュルルッ
ビュッ
ビュッ

ぼっちゃま「はうあっ♥やめっ♥やめてえええっ♥」
メイド長「泣くほど嬉しいんですかぁ？(笑)
男の子の癖に情けないでちゅね～♥」
ぼっちゃま「助けてえっ♥嫌だぁっ♥」
メイド長「ママもパパも助けてくれまちぇんよ～♥
金玉空っぽになるまで二、晩中犯してあげますからね♥」
ぼっちゃま「ひぎいいいっ♥」
メイド長「ほらっ♥ほらっ♥
気持ち良いでちゅかぁ♥
ほらっ♥ほらっ♥」
あひっ♥
あひっ♥
あひっ♥

ぼっちゃま「嫌だッ♥赤ちゃんはアスカさんと作るんだぁっ♥」
メイド長「オラッ♥精子出せッ♥
さっさと精子出せッ♥オラッ♥」
ぼっちゃま「ひぎっ♥あふっ♥くそぉっ♥ぎもぢいい♥
嫌だッ♥嫌だよおおおおッ♥
助けてママ〜っ♥パパ〜♥」
メイド長「これだからボンボンの息子はっ♥
甘やかされて育った軟弱坊主っ♥
ずっっと気にくわなかったんだよクソガキっ♥」
ぼっちゃま「ママァァァっ♥パパァァァっ♥」
メイド長「そうだ泣けっ♥泣けよっ♥キモいアヘ顔晒しながら泣きわめけっ♥
泣きながら精子出せッ♥イケっ♥イケっ♥イケっ♥」
あひっ♡
あひっ♡
あひっ♡

メイド長「んふっ♥金のなる赤ちゃんの素が大量っ♥
どうか母親似でありますようにっ♥
オラッ♥暴れるなパ～パっ♥
一滴残らず子種吐き出せッ♥
赤ちゃん製造機ッ♥オラッ♥」
ぼっちゃま「あああっ♥あがっ♥がふっ♥」
メイド長「手に入らない女の事なんか忘れて、
私の夫兼奴隷として楽しく暮らしましょうよっ♥
パイズリくらいなら、たまにはしてあげますからぁ♥」
ぼっちゃま「アス…カ…さ…ん♥
助け…て…♥」
ビュルルル
ビュルルル
ビュルルル
おおっ♡
おおっ♡
おおっ♡

メイド長「ねえ好きっ!?私のオッパイ好きですかあっ!?
ほらっ♥ほらっ♥パンパンッ♥」
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
パチンッ♡
パチンッ♡
おっぱいっ♡
おっぱっ♡

メイド長「女の子は不細工で根暗でマザコンの甘ったれがだ～い嫌いなんです♥」

すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡ すちゅ♡

きもぢぃぃっ♡

きもぢぃぃっ♡

パイずりっ♡

パイずり好きぃっ♡

メイド長「だからぼっちゃまが恋愛なんて絶対に無理です♥
結婚してくれる女の子なんて私以外いませんよぉ♥」

メイド長「私ならぁ♥ぼっちゃまがいくらキモくても
お金持ちだから我慢してあげます♥」

メイド長「だから四の五の言わずに結婚しろ♥」

メイド長「結婚してくれないならパイズリやめちゃおっかな～♥」
やめろぉ♡
やめろぉ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
すちゅ♡
じぼずっ♡
するっ♡
ぱこぱこするがらっ♡
パイズリやめないでっ♡
イかせでっ♡

メイド長「あ～ん♥嬉しい♥これで両想いですね♥」
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
んおおっ♡
メイド長「オラッ♥ATMゲット♥
ご褒美ですよ♥ぼっちゃまっ♥
イケっ♥イケっ♥イケっ♥」
んおおっ♡

んおおっ♡
ドビュ
ブビュ

メイド長「んふふっ♥愛してますよ♥ぼっちゃま♥」
ぼっ
ごぽっ
ごぽっ
ぶぴっ
ぶぴっ
ずるっ♥
ぱっこん♥
ずるっ♥
ぱっこん♥